

Title	第十号の発行によせて
Author(s)	伊井, 春樹
Citation	詞林. 1991, 10, p. 1-1
Version Type	VoR
URL	<a href="https://hdl.handle.net/11094/67306">https://hdl.handle.net/11094/67306</a>
rights	
Note	

*Osaka University Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

## 第十号の発刊によせて

本誌の創刊は一九八七年三月、それから五年を経過してこれで十号を重ねることになった。年に二冊のペースで進めてきたわけで、歳月の早さとよくここまで持続したものだ、いささか驚きもしている次第である。

雑誌の形態に移る前に、私の独断による「会報」なるものを三号まで作成し、卒業生にも執筆していただきほそぼそと研究会を運営していた。院生も増えてきたことから、思い切って未熟ながら研究発表の場を作ろうとしたのが本誌で、誌名は学生の発案もあり『古今集』真名序の「発其華於詞林者也」のことがを用いることにした。しかし、組織もなく数少ない人数で雑誌の発行はいつまで維持できるのか、不安な思いでの出発であった。経費を切り詰めるため、自分の原稿は原則として自分でパソコンに入力し、印字紙面を直接オフセットにして印刷する方法をとった。そのため印字は鮮明さが求められ、ドットプリンタではなく、その頃発売されるようになったレーザプリンタでの印刷を思いついた。しかし、おいそれと簡単に利用できるほどまだ普及していない。やっとソフトハウスの方の仲介で、ある大手メーカのショールームに出かけ、そこに置いてある機種を使わしていただいたのが、創刊号のできあがりである。

院生を主体とした発表の場として出発し、知り合いの方に送る程度であったが、思いがけない反響もあり、個人の方とか研

究機関からの寄贈依頼も多くなってきた。だが、学会のような組織ではないだけに、系統だてて送るだけの費用がない。できるだけ多くの方に読んでいただければと思うものの、学術刊行物に申請する条件にもなっていないため、三号からは和泉書院にお預けることにした次第である。

今年の四月に九号が出た後、秋には十号となるのでどうするか編集担当の院生委員と相談し、記念になるような特集を組むことにした。全員が参加するとなると、昨年来研究会で読んできた『是則集』の注釈をまとめるのが最適ということになり、その作業を進めてきた。短期間ながら、このように一冊にできたのも研究会メンバーのチームワークによるとともに、なにかと激励下さった方々の支えによると思う。考証すべき事項とか、表現などもできるだけ統一する方向で努力したが、いたらぬ点は御容赦願いたい。また、創刊号以来、原稿のできが遅いとか悪いとか、私のわがままを許していただいた研究会の会員にはお詫びするとともに、「詞林」刊行の維持に努めてきたこと心から感謝する次第である。

十号というのは一区切りにしかすぎなく、次々と新しい世代を迎えながら、さらに発展していきたく思っている。さらなる御支援をいただければと、これまでの経過とあいさつを認めた次第である。

一九九一年一〇月二日

伊井 春樹